

取扱説明書

モタロウ トルクレンチ プレセット型 大型車用 高トルク

注文コード：32623175

このたびは、トルクレンチ プレセット型 大型車用 高トルクをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。また、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

1 安全にお使いいただくために

ここに書かれた注意事項は、人体への危害や財産への損害を未然に防止するための内容です。
いずれも安全にお使いいただくためには重要ですので、必ずお守りください。



警告

この表示は、注意事項を無視して誤った使い方をした場合に、「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。



注意

この表示は、注意事項を無視して誤った使い方をした場合に、「ケガや傷害を負うこと、製品の破損やそれに伴う財産の損害が発生するおそれがある」内容です。

ご使用上の注意

【はじめに】 誤った使用方法により人的傷害や製品の破損、その他の物的損害が生じた場合、一切の補償、責任を負いません。
また、本製品の分解や改造、修理は、絶対に行わないでください。



警告

- 最大負荷を超えるような使用は絶対にしないでください。破損による部品の飛散により傷害を負う原因となります。
走行100kmを目安に、規定トルク値で増し締めを行ってください。規定トルク値以上の増し締めはしないでください。本体の破損やケガ、重大な事故に繋がるおそれがあります。
- このトルクレンチは大型車のホイールナットを規定トルク値で締めることを目的として設計されていますので、その他の目的で使用しないでください。
- 使用前に錆・亀裂・傷や変形がないか確認してください。損傷したまま使用すると、ケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- ボルト、ナットを締める、緩める用途に使用したり、締め付けすぎたりしないでください。大きなトルクが加わるため、思わぬ事故の原因となります。
- トルクレンチは測定工具ですので、トルクレンチをハンマー代わりにするなど強い衝撃を与えるような使用はしないでください。トルク精度の異常および、破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 本製品は精密機器につき、通常のラチェットハンドルと同様なボルト、ナットなどを締める、緩めるなどの使用はしないでください。破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 絶縁処理を施していないため、活電部や高圧回路の作業には使用しないでください。感電の原因となります。
- トルクレンチは、水中や海中などでは使用しないでください。錆などで劣化し、破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 高温・多湿の環境で使用しないでください。錆の発生、トルク精度不安定などの原因になります。また故障、ケガの原因になります。
- 狭い場所で締め付け作業するときは、手やひじが当たらないように注意してください。
- 引っ張り方向に人がいない、障害物が無いことを確認してください。
- トルクレンチで作業時は、周りのものに手やひじなどをぶつけないようにしてください。
- 高所作業では必ず落下防止の対策をしてください。作業中は下に人がいないことを確認してください。本製品や部品などが落下したときに、ケガの原因になります。
- トルクレンチおよび手に油類などが付いたまま作業をしないでください。
作業時は、油類を良く拭き取り、滑りが無いか確認してから作業を行ってください。手が滑り、破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 締め付け時は、ゆっくりと、弾みを付けないでください。弾みをつけたり、体重を掛けたり、足で踏み付けしないでください。
正しいトルク値の締め付けができません。また、破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- ヘッド内に注油やグリスを塗布しないでください。締め付け中にラチェットが空転して破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 本製品を立て掛けて保管、放置しないでください。大型のトルクレンチは、機械や壁に立て掛けたりすると、倒れるおそれがあります。
また、ケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- 小さなお子様の手が届かない場所に収納し、必ず大人の方が常に管理できる状況でご使用ください。



注意

- バイブなどでハンドル部を延長して使用しないでください。部品や工具を損傷するおそれがあります。
- エクステンションバーなどのジョイント類を接続した状態で使用しないでください。ジョイント類や本製品が破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- トルク値を設定する前に、グリップのロックが解除状態になっているか必ず確認してからグリップを回転させてください。ロック状態のまま回転させると故障の原因になります。
- 使用前にテスト打ちをしてください。作業初めの数回はトルク値が安定しません。トルク値が変動する原因になります。
- 長期間使用しなかったときは、精度が狂っている場合があります。使用する前に精度を点検してから使用してください。ボルト・ナットなどの締め過ぎ、締め不足の原因になります。
- ハンドル中心部を握って締め付けてください。(手力線部)握る位置により、締め付けトルク値が変動します。
- 必ず最大負荷内で使用してください。最大負荷を超える使用は本体が破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。
- トルクレンチは永久潤滑されているので注油しないでください。ただし、ラチェットヘッドは固くなることがあるので適時注油してください。
- 使用後は、ごみ、ほこり、泥、油、水分などの汚れを取り除いてください。汚れがついたまま保管すると、作動不良、精度不良の原因になります。
- 使用後の汚れはウエス(タオル)などで拭き取るだけにしてください。製造段階で給油された内部の特殊な潤滑油に影響するおそれがありますので、いかなる洗剤、薬品などを使用しないでください。
- 定期的に校正して、精度を確保してください(年1回以上)。校正されていないトルクレンチを使用すると、部品や工具の破損やそれに伴ってケガや重大な事故に繋がるおそれがあります。

【ラチェット機構内部の点検】

- 定期的にラチェット機構内部の点検を実施してください。
- 各部品(ギア、ボール、スプリング、プッシュロッド、プレート)の状態を点検してください。
- 各部品に割れ・欠け・磨耗・変形等の異常が認められた場合は、使用を中止してください。

2 各部の名称と機能



■ 名称一覧

- ① ラチェットヘッド
- ② ソケット着脱ボタン
- ③ 切替レバー
- ④ 主目盛り
- ⑤ 副目盛り
- ⑥ ロックリング
- ⑦ トルク調整グリップ

■ 付属品

収納ケース(カギ付き)



仕様

差込角(mm)	25.4
精度(%)	正回転±3、逆回転±6
トルク調整範囲(N・m)	150～800
最小目盛(N・m)	5
全長(mm)	1234
重量(kg)	5.6
材質	本体:カーボンスチール グリップ:TPR
付属品	収納ケース(カギ付き)

※ 上記の仕様は、予告なしに変更することがあります。

3 使いかた

ご使用前にソケットのサイズを必ず確認してください。

1 ソケットの着脱

- ソケット着脱ボタンを押し込みながらソケットを取り付け、ボタンを戻す。
- ソケット着脱ボタンを押し込みソケットを取り外す。

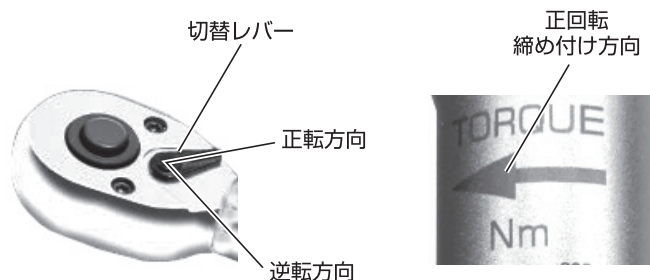


⚠ 警告

- ソケットは必ず根元まで差し込んでください。すき間がある状態で使用すると、正確なトルクで締め付けができないばかりでなく、測定中ソケットが破損や脱落、またそれに伴って怪我や重大な事故に繋がるおそれがあります。

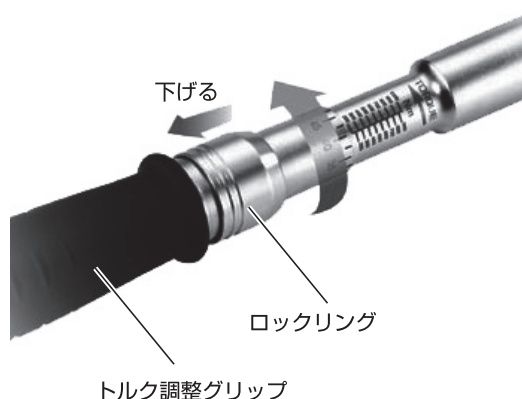
2 トルク測定方向を選択する

- 切替レバーで測定方向を選択します。
- 測定方向は、正(右)回転、逆(左)回転の両方向で行えます。(目盛り刻印部には正回転の締め付け方向を矢印で表示しています。)



3 ロックを解除する

- ロックリングを引き下げた状態を保持すると、ロックが解除されトルク調整グリップを回すことができます。



4 トルク値の設定

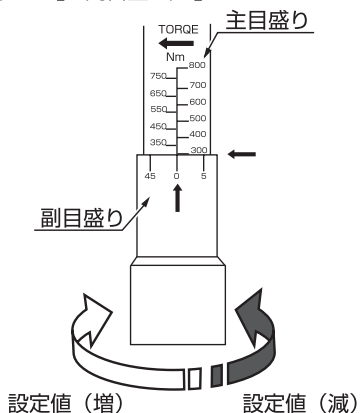
- ロックを解除した状態で、調整用グリップを回しトルク値を設定します。

■ 主目盛りにある値を設定値とする場合

〈例〉300Nmに設定する場合

- グリップを回し、主目盛りを設定値と副目盛りを「0」の位置に合わせる。

※ 主目盛り「300」+副目盛り「0」⇒300

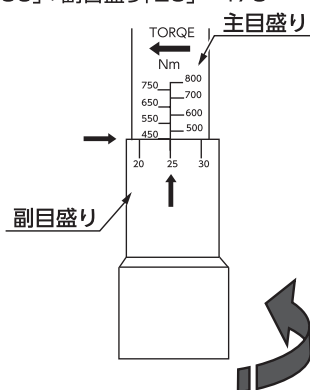


■ 主目盛りの間の値を設定値とする場合

〈例〉475Nmに設定する場合

- グリップを回し、副目盛りを「0」の位置で、主目盛りを「450」の位置に合わせる。
- グリップを回し、副目盛りを「25」の位置に合わせる。

※ 主目盛り「450」+副目盛り「25」⇒475



5 トルク値の固定

- ロックリングを引き下げた状態から手を離すと、自動的にロックリングが戻り調整用グリップが固定されます。

6 測定作業

- ① 本体の角ドライブが滑らかに動くか確認する。
- ② ソケットを測定物に合わせる。
- ③ グリップの中央を握って締め付けを行なう。

⚠ 注意

- 使用前に、切替レバーが締め付ける方向と一致しているか確認してください。
- 切替レバーが右側か左側に確実にセットされているか確認してください。中途半端な位置にセットされていると、部品に過負荷がかかり、破損やそれによって怪我や重大な事故に繋がるおそれがあります。



右ねじを締め付ける
(正回転で締め付ける)

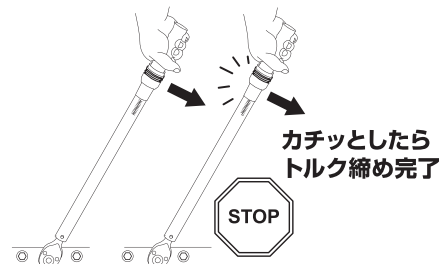
切替レバーを右側にする



左ねじを締め付ける
(逆回転で締め付ける)

切替レバーを左側にする

- ④ 設定トルク値に達した時(手に反応がある/「カチッ」と音がする)は、トルクを持つ手を緩め、トルクとソケットを取外す。



⚠ 注意

- あきらかに設定トルクを超える感覚があり「カチッ」と手応えがないときに締め続けると、オーバートルクになりますので作業を中止してください。
- 弾みをつけずにゆっくりと回してください。弾みをつけて回すと適切なトルクになりません。

7 その他の注意事項およびメンテナンス

- トルクレンチは精密機器であり、一般の工具ではないので、使用後は締め付けトルクの確認を行ってください。
- トルクレンチはボルト、ナットの締め付けに使用してください。もし、ボルト、ナットの取り外しに使用すれば、錆ついたり、挟まっていたりすることが確認できず、設定したトルク値を超えてしまい、商品やボルト・ナットの破損やそれによって怪我や重大な事故に繋がるおそれがあるので、トルクレンチを一般の工具としてボルト、ナットの取り外しに使用しないでください。
- トルクレンチを使用しないときは、精度や耐久性を維持するため、トルク値を最小に戻した状態で保管してください。
- 5000回の使用後または使用頻度が高い場合は、定期的に校正業者に依頼してトルク値および機能が正常かどうか点検・校正を行ってください。